

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第15回 余裕深度処分対象廃棄体分科会 (F9SC) 議事録

1. 日時 2008年1月16日 (水) 13:30～15:00
2. 場所 TKP田町駅前会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 阿部 (主査), 大浦, 柏木, 熊野, 駒月, 坂下, 桜井, 高橋, 野口, 土生,
山田 (基) (11名)
(代理出席委員) 伊藤 (河西代理), 浦上 (脇代理) (2名)
(欠席委員) 明里, 中山, 古谷 (3名)
(常時参加者) 大塚, 水井, 山田 (隆) (3名)
(欠席常時参加者) 藤井, 飛田 (2名)
(事務局) 岡村
4. 配付資料
F9SC15-1 第14回余裕深度処分対象廃棄体分科会議事録 (案)
F9SC15-2 標準委員会の活動状況
F9SC15-3 標準「余裕深度処分対象廃棄物の標準的な製作方法: 200※」案
F9SC15-4 標準案に対するコメント等について
F9SC15-5 人事について

参考資料

F9SC14-参考1 廃棄体標準目次 (案) と分科会審議予定

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 代理出席委員を含め13名の委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (11名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録について, 承認された。(F9SC15-1)

(3) 標準委員会の活動状況

事務局より, 前回分科会以降の標準委員会, サイクル専門部会の開催状況等について説明が行われた。

(4) 標準案に対するコメントについて (F9SC15-3, 4, 参考 1)

山田委員より、F9SC15-3 の紹介後、F9SC15-4 に沿って、サイクル専門部会その他のコメントの内容並びに対応方針案の説明が行われた。また、今後の進め方(案)について、F9SC15-参考 1 に沿って説明が行われた。審議の結果、本標準案に検査に関する記載等は追加せず、現状の形のまま省令技術基準との整合を取った上で発行を目指すこととなった。また、標準のタイトルについて、「・・・廃棄体の標準的な製作方法」から、「・・・廃棄体の製作に係わる基本的要件」に変更することとなった。

主な議論等

- ・ 標準は、柔軟に見直すこととなっており、検査に関する記載を追加せずに発行しても問題はない。
- ・ 今後、検査の議論を行ったからといって、これまで議論した内容には変更は無いと考えられる、一旦とりまとめておくことには意味がある。
- ・ 専門部会での中間報告において、ドラム缶を対象外とすべき、とのコメントがあったが、本標準の対象からドラム缶を外すことで問題はないか。
 - 原子力発電所から発生する廃棄物については、現状では余裕深度処分をドラム缶で行うことは計画しておらず、問題ない。
 - 研究機関でも、ドラム缶の利用が具体化している訳ではない。今後、はっきりした段階で見直して行けば良い。
- ・ タイトルとして、「・・・について」は不要。
- ・ 本標準案では、基本的要件から対処方法まで踏み込んでおり、タイトルが「・・・基本的要件」では内容の表現が不十分ではないか。
 - 「廃棄体の基本要件」では不十分かもしれないが、「廃棄体の製作に係わる基本要件」となっており、ある程度表現できているのではないか。
- ・ 附属書 3 は、検討経緯を示した良い資料であるが、本文との関連づけが難しい。解説にした方が良いのではないか。
 - 今後、省令技術基準との整合も含めて内容の見直しが必要であり、見直し後に再度検討する。

(5) 人事について (F9SC15-5)

a. 委員の退任、常時参加者登録解除の報告

事務局より、本分科会は今後対象を LLW に拡大して標準化の検討を行うこととなっており、余裕深度処分の対象廃棄体製作までを区切りとして明里委員、熊野委員、駒月委員、野口委員より退任の申し出があったことの報告が行われた。また、木村氏より常時参加者登録解除の申し出があったことが報告された。

b. 新委員の選任、常時参加者登録希望者の承認

浦上幹事代理より、新委員として岡本氏(東京大学)、三本木氏(東京電力(株))、

関口氏（日本原子力発電（株））の推薦が行われ、決議の結果、選任された。

- また、事務局より、新たに明里氏（（株）関電パワーテック）、大間氏（日本原燃（株））、熊野氏（東京電力（株））、駒月氏（中部電力（株））、野口氏（日本原子力発電（株））、御子柴氏（東電環境エンジニアリング（株））、三根氏（（株）関電パワーテック）より常時参加者登録の希望があったことが説明され、決議の結果、承認された。

6. その他

浦上幹事代理より、本分科会が今後低レベル放射性廃棄物全般の廃棄体を対象とし、検査方法を含めて標準化を進めていくことについて補足説明が行われた。

以 上